

# 令和6年度 第26回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

## 競技上・審判上・会場使用上の注意及び諸連絡

本大会は、令和6年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程、公認審判員規程、並びに都道府県代表者会議の申し合わせ事項に基づき厳正に運営する。

### 【競技上の注意】

#### <団体戦>

- 1 1回戦のオーダー提出については、30日9時00分より館内放送呼び出しにより、女子団体チームからオーダー提出所（メインアリーナ内）にてオーダー提出を行う。  
以降の対抗団体戦については対戦チームが決まり次第、館内放送呼び出しによりオーダー提出所（メインアリーナ内）にてオーダー提出を行う。（ただし翌日に持ち越す対戦については翌日9時よりオーダー提出を行う）
- 2 選手招集所は設置しない。対抗戦コールで団体登録されたプレーヤー（6名限度）及び監督、助監督、コーチは直接コートへ集合する。（オーダーされたプレーヤー及び監督は要集合。）アリーナに入場の際には、電子通信機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、スマートウォッチ[通信機能付き]等）の電源をOFFにする。
- 3 コートではネットを挟んで主審台に向かって右側に若番チーム（トーナメント表の小さい番号）、左側に後番チーム（トーナメント表の大きい番号）が一列で整列し、対戦チームと挨拶を交わす。主審からオーダー確認及びベンチ（7席）入り出来る登録プレーヤー、監督、助監督、コーチの確認を受ける。チーム練習は認めない。各マッチのトスの後、主審の指示により、2分間以内の練習を認める。（ダブルスはパートナー同士で同時に練習を行う。シングルスは対戦相手と練習を行う。ヒッティングパートナーは認めない。）
- 4 ベンチは主審に向かって右側を若番チーム、左側を後番チームとする。対抗中のベンチのチェンジエンスは行わない。ベンチ下やコーチ席下には、バッグ、ラケットクロスケース、氷嚢やアイスパックを入れた保冷バッグ（ベンチ下やコーチ席下に置ける程度の大きさ、大きなクーラーボックスは許可しない）、ベンチ下やコーチ席下の給水ボトルは必ずバッグの中に置く。救急処置セット（ベンチ下やコーチ席下に置ける程度の大きさで、使用はインターバル中のみに限る）の持ち込みを認める。
- 5 マッチ順序は、ダブルス、第1シングルス、第2シングルスの順で行う。  
勝敗が決定した場合、1・2回戦は3マッチ全て行い、その際、同一対抗内の勝敗が決まっている場合に限り、主審に許可を得て、残りの第2シングルスのオーダー変更を認める。3回戦以降は残りのマッチを打ち切る。
- 6 競技運営状況により、2コートないし3コート並行で行うことがある。尚、3回戦以降は2点先取の勝敗決定時に打ち切りとする。
- 7 対抗戦終了時、勝敗が決定したコートに両チームは集合する。ネットを挟んで整列し、主審から対戦結果コールを受け、対戦チームと挨拶を交わす。主審の先導で、勝者チーム前列、敗者チーム後列で退場、退場口で解散となる。

#### <個人戦>

- 1 選手招集所は設置しない。マッチ呼び出しコールでコートに直接集合する。  
アリーナに入場の際には、電子通信機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、スマートウォッチ[通信機能付き]等）の電源をOFFにする。
- 2 コートではネットを挟んで主審台に向かって右側に若番（トーナメント表の小さい番号）、左側に後番（トーナメント表の大きい番号）が整列し、対戦者と挨拶を交わす。主審からプレーヤー確認、及びコーチ席（2席）入り出来る監督、助監督、コーチの確認を受ける。
- 3 トスの後、主審の指示により、2分間以内の練習を認める。練習は対戦相手と行う。ヒッティングパートナーは認めない。
- 4 コーチ席には、バッグ、ラケットクロスケース、氷嚢やアイスパックを入れた保冷バッグ（コーチ席下に置ける程度の大きさ、大きなクーラーボックスは許可しない）、コーチ席下の給水ボトルは必ずバッグの中に置く。救急処置セット（コーチ席下に置ける程度の大きさで、使用はインターバル中のみに限る）の持ち込みを認める。
- 5 マッチ終了後、主審の先導で、勝者前列、敗者後列で退場、退場口で解散となる。

## ＜団体戦・個人戦 共通＞

- 1 全ての種目準々決勝までは主審、線審2名、得点表示員1名とする。ただし、個人戦（シングルス）の準々決勝までの得点表示員は線審と兼務する。  
[準々決勝までのサービスジャッジは主審とレフェリーが主審と協議して就ける場合がある。]  
ただし、団体戦、個人戦（シングルス）の準決勝以上は主審、サービスジャッジ、線審4名、得点表示員1名とする。
- 2 全ての日程で競技開始は9時30分とするが、2巡目以降の団体戦及び個人戦（シングルス）は各種目回戦ごとの流し込み方式とする。
- 3 会場内では、プレーヤー（団体戦登録者、個人戦出場者）・監督・助監督、コーチは大会事務局から発行された入場許可証を必ず携帯すること。
- 4 公式練習では、ヒッティングパートナー（入場許可証携帯者に限定する）を帯同させることを許可する。
- 5 コーチ席を2席設ける。コーチ席へ入る事を許可される者は、登録のある監督、助監督、コーチに限られる。
- 6 コートサイドにはプレーヤー用のバスケットやボトルケースは設置しない。水分補給用のスクイズボトル等の蓋付きの容器のみ使用を許可する。ラケットバッグ等を持参の上、コートサイドに置き、汗拭き用タオル、水分補給用ボトル、交換用ラケット、ストリングスカッター等は各自のバッグに収容する。水分を含む物は、フロアに直置きしない。ラケットクロスケース上へ置く事は許可しない。
- 7 氷嚢の使用はインターバル中のみ認める。また、競技フロア内への大きなクーラーボックスの持ち込みは禁止とするが、コーチ席の下に置ける程度の大きさのケースや救急処置セットのコーチ席への持ち込みを認める。使用後は必ずケースの中に収納すること。
- 8 シューズダスターをコートサイドに、置く事を認める。
- 9 ・競技時の着衣は、(公財)日本バドミントン協会審査合格品を限度とする。  
・プレーヤーのウェア（上衣）の背面には、3箇所（都道府県名、学校名、プレーヤー名）の内、都道府県名は必須とし、2箇所まで認め（学校名〔上段〕・都道府県名〔下段〕、或いは、都道府県名〔上段〕・プレーヤー名〔下段〕のいずれかとする。）、日本文字表記で単色、かつ表示部分の配色に対して明瞭に判読できる色とする。文字列の大きさは、高さ6cm～10cm、横30cm以内とし、大会運営規程第24条に従う。  
・ゼッケンを使用する場合、白地に文字列は、縦20cm程度、横30cm程度の大きさを基準とする。また、この場合、文字の色は黒色または濃紺色とし、4点留めで固定する。（小さなメーカーロゴ入り安全ピン、及び4箇所単色のカラー安全ピンの使用は認める）
- 10 防汗や整髪のために、ハチマキの使用は認めるが、体裁良く結ぶこと。インナーについては、露出する場合には、審査合格品を限度とする。
- 11 コーチ席入り出来る監督・助監督・コーチ、ベンチ入り出来る登録プレーヤーは規程に合わせたコード（服装規程）で臨むこと。コーチ席及びベンチでの本年度記念Tシャツの着用を認める（日本協会申し合わせ事項）。チームユニフォーム・シャツ、ポロシャツ、当大会記念シャツ、ブラウス、スラックス、スカートは認可する。ジーンズや七分丈スラックス、パミュダ、ショートパンツ、ショーツ、スリッパ、サンダルは認可しない。上履きシューズを着用する。尚、疑問のある着装については、レフェリーが適否判断を下す。
- 12 インターバルを除くマッチ中のアドバイスは着座したコーチ席からのアドバイスに限られる（コーチは、ゲーム毎にプレーヤーサイドへチェンジエンズする。）。インプレー中、及びプレーヤーのサービスの態勢が整った後のアドバイス及び応援は認められない。コーチ席の監督等はインプレーでなくなった場合に移動する。インプレー中、及びお互いのサービスの態勢が整ってからのコーチング、応援は認められない。  
応援についての拍手は認めるが、鳴り物（音響機器、うちわ、スティックバレーン等）の使用を禁ずる。
- 13 当該プレーヤーと監督（団体戦に限る）に主審に質問する事を認める。抗議や異議であってはならない。
- 14 プレーヤーは、マッチ中、ステンシルマーク入りのラケットの使用を禁ずる。
- 15 プレーヤーは、公式練習中及びマッチ直前練習中、マッチ中では極力マスクを外す。
- 16 公式練習用のシャトルは、各自持ち寄りとする。マッチ直前の練習シャトルは主審の許可で供出する。  
レフェリー監修のもと、シャトルの試打を行う。銘柄及びスピードの変更は認めない。  
シャトルの交換については主審の許可を得ること。
- 17 競技進行上、コートを変更する場合がある。
- 18 同一プレーヤーのマッチが連続する場合、15分程度を原則とするブレイクタイムを設ける。
- 19 本部より団体対抗戦及び個人戦（シングルス）マッチのコール後、10分以上経過してコートに入らない場合、レフェリー判断で棄権とする場合がある。
- 20 競技初日（大会第2日目）及び競技2日目（大会第3日目）については、競技進行状況によっては、翌日に団体対抗戦及び個人戦（シングルス）マッチを翌日に持ち越す事がある。
- 21 競技会場内で空調（エアコン）を使用する場合がある。
- 22 監督・助監督・コーチ・プレーヤーは競技フロア内では電子通信機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、スマートウォッチ〔通信機能付き〕等）の電源をOFFにする。
- 23 競技者（監督、助監督、コーチ、プレーヤー）は、競技区域、ベンチに入る時に大会事務局発行入場許可証を掲出する。
- 24 その他、都道府県代表者会議で決定した事項を遵守すること。

## 【審判上の注意】

### 1 審判編成について

- (1) 団体戦は、1回戦より準々決勝までは、主審（神奈川県協会）、線審2名と得点表示員1名を当該チームに割り当てる。対戦するチーム双方より、マッチごとにベンチ反対サイドの線審各1名を担当する。又、対戦するいずれかのチームより、マッチごとに1名の得点表示員を交互に担当する。  
準決勝、決勝は、主審、サービスジャッジ及び線審4名（神奈川県協会）、得点表示員1名（当該チームに割り当てる）を対戦するいずれかのチームより、マッチごとに1名の得点表示員を交互に担当する。
- (2) 個人戦（シングルス）は、1回戦より準々決勝までは、主審（神奈川県協会）、線審2名（得点表示員1名を兼務）を当該チームに割り当てる。対戦する双方より各1名の線審を担当する。アリーナ内側の線審は得点表示員兼務とする。  
準決勝、決勝は、主審、サービスジャッジ及び線審4名（神奈川県協会）、得点表示員1名を当該コートの前マッチでの敗者サイドが担当する。

### 2 インプレー中にメインアリーナに設置されている大会横断幕にシャトルが触れた場合はフォルトとなる。

（会場ルール）

- 3 すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。  
又、第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。
- 4 プレーヤーはインターバル中を除き、マッチ中、主審の許可なしにコートから離れてはならない。
- 5 第1ゲームと第2ゲームの間及び第2ゲームと第3ゲームの間並びに第3ゲームのインターバルでアドバイス等の為、コートへ入る事を許された2名は、プレーヤーがチェンジエンズを行ったエンドに入るようにする事。
- 6 大会医療スタッフは、負傷等により処置が必要なプレーヤーに対してインターバル中を除き、マッチ中、1度だけスプレーを使用した処置をすることができる。（各人1回）
- 7 棄権について
  - (1) 団体戦の当該チーム監督、個人戦は当該都道府県代表者が本部へ所定の棄権届を提出した場合、棄権を受理する。
  - (2) 団体戦ではオーダーされたプレーヤー及び監督、個人戦（シングルス）ではプレーヤーがマッチの開始時にコートへの放送呼び出しに応じなかった場合、不戦勝として棄権の措置をとる。
  - (3) 団体戦マッチにオーダーされた者が欠場した場合、及び団体戦マッチ中に棄権した場合
    - ① 以降の団体戦に出場を認めるかは、棄権理由により、レフェリーが判断する。
    - ② 個人戦に出場する事は認められる。
- 8 競技規則の第9条（サービス）第1項（5）サーバーは、スピンの（回転）を加えずにシャトルをトスし、ラケットで最初にシャトルの台を打つものとする。  
（本年9月パリパラリンピック終了まで継続される）

### 9 第13条（フォルト）、第4項インプレーで、(2) 打者が、ネットを越えてきたシャトルを、1回のストロークで打つ場合、（打点が打者側であれば）ラケットがネットを越えてしまうのはやむを得ない。

### 10 次の場合には、その程度により、警告・フォルト・失格の処置をとる。

- (1) プレーヤーが体力や息切れ回復できるように、またはアドバイスを受けるために、主審の許可なしにコートから離れたり故意に遅らせたり、プレーを中断させている場合。
- (2) 負傷・罹患等でマッチ継続が不可能と大会医療スタッフが判断した場合（棄権勧告に従わない場合）。
- (3) シャトルのスピードや飛び方を変えるために故意にシャトルに手を加えたり、破損させた場合。
- (4) プレーヤーに不品行な振舞いや暴言があった場合。
  - ① ラケットや身体でネットなどのコート施設や床を叩く等。
  - ② 審判員や観客に対して横柄な態度をとる等。
  - ③ 耳障りな掛け声や叫び声を発する等。
  - ④ 相手を威嚇、あるいは不快な言動をとる（相手に対して拳を挙げる、ラケットを振りかざす等の威嚇する行為などが該当する。）等。
- (5) プレーヤーが審判員の判定に服さない場合等。

### 11 プレーの遅延に該当するサービス・レシーブ態勢遅延行為、サーバーの長い停止はフォルト事項に該当する。

### 12 インターバル以外のマッチ中、タオルでの汗拭きや水分補給、シューレース（靴紐）の締め直し、シューズソールのワイプ（滑り止め）、ラケットの破損、ストリングス破損によるストリングスカットやラケットの交換等は、プレーに支障を来さない程度で、敏速な行動ならば認められる事もあるが、主審の許可を得る。

## 【会場使用上の注意】

- 1 駐車場の開門は7時45分とする。舗装駐車場、第1臨時駐車場を無料開放する。(開場時間 7:45~21:30)  
各ホテルへのシャトルバス復路運行は当該チームの競技終了後、随時出発とする。
- 2 各日共に小田原アリーナへの大会参加者及び一般の入場時間は、8時45分とする。
- 3 メインアリーナ入場にあたっては上履きへ履き替える事。メインアリーナ2階観覧席より直接フロアに降りる際には履き替えの必要はないが、階段下の足拭きマットで良く汚れを落とす事。
- 4 各日、公式練習時間前に、都道府県対抗団体戦は各県代表者で、個人戦は当該責任者で受付を行う。
- 5 フラッシュ・ストロボ等を用いての写真撮影及び競技に支障を来たす行為は禁止。  
競技会場内の電源(コンセント)の使用は禁止。取材希望者は大会事務局から入場許可証の発行を受ける。
- 6 外部から持ち込んだゴミは、各自が責任を持って回収する。館内で購入した飲料容器についてはPETボトルと缶容器の分別回収に従う事。  
大会手配の弁当の廃棄物は必ず14時までに各チームでまとめてメインアリーナ入口の「日本旅行」デスクへ集積する事。
- 7 貴重品や私物は各自で責任を持って管理する。翌日への留め置きは認めない。
- 8 2階観客席最前列は直近当該コート応援者優先とする。後方の観戦者の妨げとならない様、着座して観戦する事。
- 9 競技中の疾病、傷害については、応急処置を主催者側で行うが、その後は各自で処置する事。

## 【大会関連基本情報】

- 1 大会会場  
小田原市総合文化体育館(小田原アリーナ) 小田原市中曽根263 TEL 0465-38-1148  
小田急小田原線蛍田(ほたるだ)駅(小田原方面) 下車徒歩約15分、  
小田急小田原線富水(とみず)駅(大井松田方面) 下車徒歩約15分。
- 2 大会本部宿舎  
天成園 〒250-0311 神奈川県足柄下郡箱根町湯本682 TEL 0460-83-8500  
朝食7時00分~
- 3 大会参加者宿舎  
① ニューウェルシティ湯河原 〒413-0001 静岡県熱海市泉107 TEL 0465-63-3721  
朝食6時30分~ シャトルバス出発7時40分  
② 天成園別館 〒250-0011 小田原市栄町1-1-15 TEL 0465-23-1515  
朝食7時00分~(14F) 小田原駅西口バスロータリー、シャトルバス出発8時20分
- 4 大会手配の弁当配布について  
各日、11時よりメインアリーナ入口の「日本旅行」デスクで各チームまとめて配布する。
- 5 救急指定病院一覧  
① 小田原市立病院 小田原市久野46 TEL 0465-34-3175  
② 医療法人財団報徳会西湘病院 小田原市扇町1-16-35 TEL 0465-35-5773  
③ 山近記念総合病院 小田原市小八幡3-19-14 TEL 0465-47-7151
- 6 大会競技記録  
神奈川県バドミントン協会 ホームページへアップする。  
神奈川県バドミントン協会ホームページアドレス <http://www.h3.dion.ne.jp/~kba/>